

平成17年度第2回 全学FD－認証評価を知る－

アンケートのまとめ

回収：56名

質問1) いずれの区分からの参加ですか。

- 部局長等 各部局等評価関係教員
 事務局及び各部局評価関係事務職員 その他

部局長等 13名 各部局等評価関係教員 20名
事務局及び各部局評価関係事務職員 15名 その他 8名

質問2) 今回のFDは、認証評価の「仕組み」についての本学教職員間の共通把握を促すにあたり、役に立つとお考えですか。

- 役に立つ どちらとも言えない 役に立たない

	役に立つ	どちらとも言えない	役に立たない
部局長等	12	1	0
各部局等評価関係教員	16	4	0
事務局及び各部局評価関係事務職員	14	1	0
その他	5	2	1

※各セルの数値は人数を示す

質問3) 今回のFDは、認証評価の「意義」についての本学教職員間の共通理解を促すにあたり、役に立つとお考えですか。

- 役に立つ どちらとも言えない 役に立たない

	役に立つ	どちらとも言えない	役に立たない
部局長等	11	2	0
各部局等評価関係教員	15	5	0
事務局及び各部局評価関係事務職員	14	1	0
その他	6	2	0

※各セルの数値は人数を示す

質問2と質問3のいずれも「どちらとも言えない」ないしは「役に立たない」と回答した者は8名であった。

質問4) 九州大学の教育の質が確保されているかどうかを検証するにあたり、何を検証すればよいとお考えでしょうか。考えておられることがありましたら、ご教示ください。

部局長等

- ・ 卒業時に卒業生からのアンケートを実施すること。
- ・ 教育成果の実態調査を官・学・産業界など広い範囲に亘って継続的に実施する。
- ・ 創造力と実行力を学生が身につけているか：大学院では修論や博士論文の検証
- ・ 卒業生に対するアンケート
- ・ 社会からの評価
- ・ 学部教育では、シラバスの内容・実施状況及び学生の満足度
- ・ 各種国家試験成績
- ・ 修士課程では、定員充足率、就職・進学状況。博士課程では、定員充足率、学位授与状況。

各部局等評価関係教員

- ・ 授業評価アンケートの有効性フィードバック
- ・ 研究の質を上げることが第一に重要。
- ・ 就職先での卒業生・修了生の質の評価アンケート（組織の長による評価と卒業生・修了生自身による評価）
- ・ アンケート結果の評価は表面的という印象を得た。
- ・ 学生の育成という観点からは入試から卒業（修了）までの成績等の追跡調査が考えられる
- ・ 人材受入れ側の人事関係者のアンケート
- ・ 授業等の教育サービスという観点からは、成績評価状況の調査が考えられる。
- ・ OBの意見
- ・ 人材がどう育ったかという観点からは、卒業／修了後の状況把握、学生時に受けた教育に対するアンケート等が考えられる

事務局及び各部局評価関係事務職員

- ・ 各部局のアドミッションポリシー、教育目標・達成目標、カリキュラムの体系性、シラバス、達成度評価の明示並びにこれらの実現度の確認と情報明示、各教科のテスト問題など。
- ・ 人格の形成に教育が十分貢献しているのか

その他

- ・ 単位認定基準の明確化
- ・ 研究と教育のバランス
- ・ 学生の評価を受ける

質問5) 認証評価に限らず大学評価への組織的あるいは教職員個々の取り組みを、より効果的なものにするために重要であるとお考えのことがありましたら、ご教示ください。

部局長等

- ・ 認証評価の実情を全教職員に周知させること。
- ・ 大学評価の重要性を一部教育のだけでなく広く、繰り返し繰り返し発信の場と時間を設けて共通認識の強化に努める。
- ・ 独創的教育の経費的支援の可能性

- ・ 各部局，教員個人で行われている取り組みを相互に公開し，情報公開する場があってもよいのではないかと。
- ・ 学生アンケートに基づく教育改善
- ・ 大学評価に関する内容の周知
- ・ 部局における教育支援・企画立案機能の強化
- ・ 大学評価情報室の拡充

各部局等評価関係教員

- ・ 教職員の（学生への対応などの）話し合いの場を多くする。
- ・ 評価に関する意義・位置付けを全教員が共有できるようにする。
- ・ 「社会へのアピール」と申しますか，情宣活動ではないでしょうか。
- ・ 関口先生のお話し（評価を積極的に利用する気度とくむ）は，参考になりました。
- ・ 大学，部局単位の「評価」を前提として，比較的小さな教育・研究単位での定期的な自己点検・評価の取り組みが必要
- ・ 全教員への大学評価についての理解を徹底させるため，そのような勉強会への参加を義務づける。
- ・ 定期的FD，大学評価情報室を中心とした的確な問題の抽出

事務局及び各部局評価関係事務職員

- ・ 大学全体の目標の周知徹底
- ・ 部局の取組のアピール
- ・ 目的等の旗印の明確化と，今回のようなFD，SDと部局におけるFD，SD，並びに取り組みの検証
- ・ このようなFDに参加しない（する気のない）教職員の強制参加

その他

- ・ 教職員の（学生への対応などの）話し合いの場を多くする。

質問6）今回のFDを通して、高等教育機関を対象とした「評価」についてのお考えに、どのような進展がありましたでしょうか。その進展について、あるいは、社会へのアピールも含め「評価」全般への取り組みにあたって留意することなど、ご意見をお聞かせください。

部局長等

- ・ 具体的な方法を示してもらったので，有意義であった。
- ・ 部局の目的・取組みを認証評価基準に照らしてチェック・見直しを進めたい。
- ・ 全般的に参考になりました。特に印象に残ったのが，教育内容，方法改善のとりくみが各部局でなされているので，その交流（周知）がもっとなされるべきであるという事です。
- ・ ①大学とは何か，②社会の中における大学，特に日本の社会の中における大学の意義・役割，③大学における研究と教育の関係 or 研究の意義について，あらためて考えさせられた。

各部局等評価関係教員

- ・ 部局での中期目標・中期計画策定段階で認証評価にもうまく対応できる体制を整えることが必要との認識を持つことができた。
- ・ 大学法人評価と認証評価を一本化することができないのであろうか，両評価には重複すると

ころが多い，より良い効率的な評価システムの確立が必要。

- ・（感想）文科省小山氏の話は参考になりましたが，大学生の学力低下の問題に役人としてどう考えておられるのか，といった話があるとよかったですと思います。本日の役回りからいうと無理な注文かもしれませんが。
- ・ 関口先生のご指摘を受けて，労力を惜しまないよう努めたい。

事務局及び各部局評価関係事務職員

- ・ 様々な評価等を通じて，九州大学として大学人自らの質の保証に更に取りくむべき。

その他

- ・ 認証評価を duty としてではなく，手段として活用する意義が理解できました。又，講演主体の中で，総合討論的という双方向的なFDであったと思います。